

● 苫小牧港の目指す CNP 及び将来像実現のための方策

① CNP 実現のための方策

- (1) 港湾オペレーションの脱炭素化
- (2) 低・脱炭素燃料バンカリング機能
- (3) 港湾整備による脱炭素化
- (4) 港湾施設におけるブルーカーボン生態系の創出
- (5) 漁業活動の脱炭素化

② 将来像実現のための方策

- (1) 水素・燃料アンモニア等の効率的なサプライチェーンの構築
- (2) 既存の物流インフラによる次世代エネルギーの輸送・供給方法の確立
- (3) 次世代エネルギーの備蓄
- (4) 新千歳空港向けの SAF の生産と供給
- (5) 産業連携による水素等の地産地消

内航コンテナ船「きそ」が初入港しました

苫小牧港管理組合

令和5年6月9日(金)に、内航コンテナ船「きそ」が苫小牧港(東港区中央ふ頭)に初入港しました。

当日は、苫小牧港利用促進協議会(事務局:苫小牧港管理組合)の主催により、入港歓迎セレモニーを開催しました。

「きそ」は、内航コンテナ船としては初となる1,000TEU型コンテナ船シリーズの記念すべき第1船であり、これまでの600TEU型を大きく上回る積載量を誇り、モーダルシフトの需要にも重点的に対応するスペックを有していることから、コンテナ貨物量の増加はもとより、「カーボンニュートラル」や「2024年問題」といった共通課題へのポジティブな効果についても大きな期待が寄せられています。

入港歓迎セレモニーは、「きそ」船内で行われ、多くの関係者や取材陣が見守る中、藤原船長、山崎機関長、井本海運(株)井本社長に対して、記念盾や記念品、花束を贈呈するなど賑やかに行われました。

苫小牧港が開港60周年を迎えた2023年は、「きそ」を運航する井本商運(株)の創立50周年に重なり、それぞれが大きな節目となることから、相互にこれまでの歩みを実感するとともに、今後のさらなる発展について確認するこの上ないタイミングとなりました。

今後も利用者のニーズに的確に対応するとともに「環境価値で選ばれる港湾」の実現に取り組んでいきます。

